

# とんべえじぞう 頓兵衛地蔵

区指定文化財（史跡）

昭和49年（1974）2月2日指定

所在地：下丸子1-1-19

交通アクセス：東急多摩川線武蔵新田駅から徒歩4分

公開の有無：常時公開（格子扉越しに拝観可能）



武蔵新田駅と下丸子駅の間あたりの道路脇に、木造の小さなお堂があります。堂内には石造の地蔵菩薩立像が安置されており、「頓兵衛地蔵」と呼ばれています。

頓兵衛といえば、<sup>ひらがげんない</sup>平賀源内が書いた浄瑠璃「<sup>しんれいやぐちのわたし</sup>神霊矢口渡」に登場する渡守です。作品は明和7年（1770）には人形浄瑠璃として、寛政6年（1794）には歌舞伎としてそれぞれ江戸で初演されています。ストーリーは5段に分かれており、『<sup>たいへいき</sup>太平記』所載の<sup>にったよしおき</sup>新田義興が武蔵国矢口渡で憤死したことに始まってその遺族の後日談までを描きます。特に4段目「頓兵衛住家の場」が有名で、

<sup>あしかが</sup>足利方に追われる新田義興一行が乗る舟の底を抜き、義興を謀殺した頓兵衛は、作品中では強欲な敵役として描かれています。

「頓兵衛地蔵」は、頓兵衛がのちに足利方の謀略に加担した罪を悔いて、義興の冥福を祈るために建てたと伝えられています。地蔵堂裏手の低地は<sup>こうみょうじ</sup>光明寺池（鶉の木1-23）からつづくかつての多摩川の蛇行跡で、現在堂が建っているあたりが義興謀殺の頃には土手沿いであったことがわかります。像は摩耗がはげしく、溶けたように見えるため「とろけ地蔵」とも呼ばれます。

周辺には、新田義興を祭神とする新田神社（矢口1-21-23）の宝物をはじめとして、関連文化財が多く伝わっています。歌舞伎の有名場面の舞台ともなった地を、文化財を見ながら歩いてみるのはいかがでしょうか。

## [関連文化財]

都指定有形文化財「新田大明神縁起絵」新田神社宝物殿 ※毎年10月10日一般公開

区指定有形文化財「新田神君之碑」新田神社境内

区指定史跡「矢口の渡し跡」（矢口3-21地先）

「<sup>みょうれんづか</sup>妙蓮塚（三体地蔵）」（下丸子2-1-8） ※戦死した義興家臣3人を祀る。「<sup>とよせ</sup>十寄神社」（矢口2-17-28） ※戦死した義興家臣10人を祀る。